

一般花壇部門

総 評

審査は8月4日、5日の2日間、最高気温39.8℃の記録的酷暑の中で行いました。今年は連日の異常高温と少雨にもかかわらず、これまで以上に元気が良く、色鮮やかな花壇が多く見られました。頭取さんやグリーンキーパーさん、更に、ご協力いただいた多くの方々の大変なご努力のおかげと心から感謝申し上げます。

特に、水管理にご苦労が多く、早朝や夕方の涼しい時間を活用して、細かいメンバー編成のもと、じっくりと時間をかけて株元の土にたっぷり水を浸み込ませたと聞きました。

デザインにおいても新しいチャレンジが見られました。大きくなり過ぎた花木をすっきりと整理して雄大な景色を取り込むことによって、広がりのあるダイナミックな花壇に変身させたり、樽プランターからこぼれ落ちる花の流れを表現したり、ポットいっぱい溢れるほどの花々を咲かせるなど、個性的で多種多様な花壇を楽しませていただきました。

さらに、今年は2つの素晴らしい活動が印象に残りました。1点目は、年々高齢化が進み参加者の減少が懸念される中、親子寄せ植え教室が盛況だったり、総合学習の一環として花壇活動が活用されたり、小さな子供連れで花壇作業に参加される事例も見られ、幅広い世代が花壇づくりに取り組む動きが感じられました。

2点目は、県東部の活躍が目立ったことです。従来から実力を発揮されている地域の花壇はデザインを一新するなど、格段のレベルアップが見られました。さらに、メンバーが育てた苗を持ち寄ったり、可愛いオブジェを配置したり、好みの草花を毎年追加して長い年月をかけて花壇の完成を目指すなど、楽しい花壇づくりが見られました。

50年を超える本県の花のまちづくり活動の積み重ねのもと、新しい活動のきざしが感じられるコンクールでした。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した入善町の「花と緑の銀行 入善支店 桐山地方銀行」の花壇は、花木を中心として周辺を円形に配置された花壇に、1年草と宿根草がバランス良く植え付けられていました。2年間かけてしっかりと腐熟させた堆肥が利用されており、どの花も生育が旺盛で色鮮やか、さらに、色の組み合わせが明確に分かるように高さも揃えられていました。宿根草は1年草に影響しないように地上部は的確に切り戻され、地下部は波板を入れて根域が制限されていました。特に目を引いたのは30cmほどに整えられたワイヤープランツによるフワフワの縁飾りでした。花壇のデザインが明確に見られるように、春先にしっかりと刈り込んで、形を整えたそうです。

22年間の活動の集大成が感じられる、気品の高い花壇に仕上がっていました。

(審査委員長 山本良孝)